

再生可能エネルギー導入等を契機とした環境教育

1 市民協働発電第1号ソーラーを設置した西京高校にて「環境シンポジウム」を開催

西京高校屋上の市民協働発電制度第1号となるソーラーパネルが平成25年3月下旬から発電・運用を開始しています。運営団体では、これを記念して、本校を発信サイトにもするべく、5月25日に、環境やエネルギーに関するシンポジウムを実施しました。

シンポジウムには、本校第1学年生徒全員が出席して、尾池和夫京都造形芸術大学学長による基調講演を受け、クイズ大会などを通して環境・エネルギー問題について実感し、認識を深めました。



2 水垂埋立処分地大規模太陽光（メガソーラー）発電所における環境出前授業

平成24年9月24日、京都市立明親小学校5年生を対象に、メガソーラー設置事業者によるiPadを活用した環境出前授業を実施しました。メガソーラーの紹介や、自分たちが使うエネルギーについて考えるグループワーク&発表会など子ども達の探究心を大切に授業を実施しました。



3 琵琶湖疏水における京都市立伏見工業高等学校「らせん水車」を設置

伏見工業高等学校では、「環境再生に工業技術が果たす役割」という観点から、「自然エネルギー」と「自然環境再生」をテーマにした学習活動を実施しており、落差の小さい水路でも設置可能な小水力発電として「らせん水車」の研究に継続的に取り組んでいます。

平成25年3月23日には、岡崎地域における「エコとエネルギーのショーケース」の実現に向けた再生可能エネルギーの導入取組として、この「らせん水車」による「小水力発電」の運転実験を実施しました。



4 その他

○ グリーンZOO

岡崎の動物園に必要なエネルギーをできる限り、再生可能エネルギー（太陽光や動物のふん尿を用いたバイオガスなど）で賄う地産地消型動物園の実現に向けた取組

○ 朱雀第四小学校エコ改修事業（平成23～24年度、別紙11参照）

○ 金閣小学校スーパーエコスクール実証事業（平成24～26年度）

省エネの徹底によりエネルギー負荷の低減を図ると共に、学校運営上必要なエネルギーを創エネ、蓄エネ等の技術を用いて賄い、年間のエネルギー消費を実質ゼロにすることを目指す実証事業

○ 小中学校等62の教育施設に太陽光発電設備を設置

○ 小中学校等180の教育施設に環境教育用風力発電設備を設置